

3) 地域医療を守りたい…住民としてできること ～県立柏原病院の小児科を守る会の取り組み～ 県立柏原(かいばら)病院の小児科を守る会 代表 丹生 裕子(たんじょう ゆうこ)

2007年4月、県立柏原病院小児科が存続の危機を迎えたことにより、子育て中の母親たちで、署名活動を目的とした「県立柏原病院の小児科を守る会」を結成した。署名用紙には、医師増員の要望と共に、住民側も「コンビニ受診」を控え、医師にとって働きやすい地域づくりに努める旨を盛り込んだ。

安心して子どもを産み育てるには、お医者さんの力が不可欠だ。「子どもを守ろう！お医者さんを守ろう！」を原点に、3つのスローガン「コンビニ受診を控えよう」「かかりつけ医を持とう」「お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」を掲げ活動をしている。具体的には、啓発用マグネットステッカーの作成、受診の目安フローチャートを盛り込んだ小児救急冊子「病院に行く、その前に」の作成、柏原病院小児科窓口への「ありがとうポスト」の設置、子育て世代に向けた医療座談会「ママのおしゃべり救急箱」の開催など。地域医療の現状を伝え、住民として出来ることを共に考え実行するよう呼び掛けている。

活動を進める中で気付いたことは、医師と住民は、医療を施す者と受ける者という、相対するものではなく、共に力を合わせて地域の医療を作り上げていくパートナーのようなものだということだ。行政・医療者・住民・報道が協力することで、地域は変わっていくのだということを実感している。

講師紹介

大阪外国語大学卒業、「兵庫県立柏原病院の小児科を守る会」の署名活動に参加、現在、代表